

# 豊かな八郎湖が持つ可能性

## 現在まで

昭和52年に干拓工事の全てが終了し、それから43年もの月日が流れました。

工事終了の翌年、昭和53年からは「アオコ」が継続的に発生しています。私がこの世に生まれたのが昭和53年8月ですので、この街の方たちは私の人生と同じ時間、この「アオコ」の問題を抱えてきていることとなります。この間、湖内の水質は悪化の一途をたどり、平成13年には全国の湖沼水質ワースト5位。平成18年にはワースト3位となってしまう、平成19年には国の「湖沼水質保全特別措置法」における指定湖沼に指定されています。



馬踏川に設置されたアオコ抑制装置

水質の悪化が進んでいる現在の八郎湖ですが、秋田県では、この状況を少しでも良くしようと、平成18年に「八郎湖環境対策室」を設置し、平成20年には「湖沼水質保全計画（第1期）」を策定し（現在3期計画期間中）水質の改善に努めているところです。

平成12年からのデータですがアオコ発生源対策、湖水浄化対策、応急対策として今までの総額で約7億8千万円もの費用を投入し、これらの対策事業を継続的におこなって

きています。ですが、なかなか思うような成果が上がっていない現状であり、今後この水質改善に向けてどう挑戦していくか、どう一歩前に進めていくのかをみんなで考え、行動していかなければいけないと思っています。

## まず動く!!

### 議会外での、いろいろな活動。

天王グリーンランドなどにストリートピアノ設置



誰もが触れられる音楽があふれる街へ。

東湖小健康寿命延伸プログラム支援



生活習慣は小さい時から作られる。

青年局 街頭運動



街頭から、自分の考えをお伝えさせていただきました。

地域スポーツの振興



大好きなバスケットを通じ、子どもたちとともに成長させていただいています。

潟上ロータリークラブにて講演



八郎湖の未来について自分の想いを述べさせていただきました。

地域サロン活動を視察



同じ時間を共有することでみなさんの想いを知ることができます。

## これから



水質改善と産業の復活を考える。以前の八郎湖(干拓前の呼称)は全国でも2番目の広さを誇り、海水と真水が混ざり合う「汽水湖」だったため、たくさんの種類の魚などが多く採れる豊かな漁場だったと先輩たちに教えていただきました。汽水から真水に変わってしまったことで起こった生態系の変化や水質の悪化、漁業者の高齢化などが原因で年々減っている漁業の許可件数と漁獲高数。中でも汽水でしか繁殖できない「ヤマトシジミ」は今やほぼ採れなくなってしまっています。しかし、このシジミの漁獲(下表参照)を見ると、1990年ごろに漁獲高が突然上がっているのが分かると思うのですが、なんとこの年は1万トンものシジミが採れました。現在のヤマトシジミの漁獲高日本一が島根県の宍道湖の約4千トンであることからしても、その数年間、いかに八郎湖のシジミが多く採れたのかが分かります。シジミが急激に採れた要因は、台風による海水の流入がポイントで、このことにより、湖内が汽水化されました。シジミの繁殖時は若干の塩水が必要と言われており、塩水の流入とシジミの繁殖期のタイミングがバッチリだったことが大きく影響しています。

さらに、シジミはアオコなどを餌として体内に取り込み、綺麗な水を吐き出します。継続的にシジミが採れる湖になることで、水質改善の可能性と失われた産業の復活ができるのではないかと。

この過去のデータに、私は八郎湖再生の可能性を見てしまうのです。

### 八郎湖のデータ

#### ●八郎湖許可漁業件数



#### ●漁獲高の推移



#### ●八郎湖しじみ収穫量

1957 (S32)	1988 (S63)	1989 (H元)	1990 (H2)	1995 (H7)	2020 (R2)
1,759 トン	47 トン	1,755 トン	<b>10,750 トン</b>	58 トン	<b>0 トン</b>